（別紙４）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	富里市簡易マザーズホーム			
○保護者評価実施期間	令和7年1月15日		～	令和7年2月14日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	4	（回答者数）	4
○従業者評価実施期間	令和７年年1月15日		～	令和7年2月14日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	2	（回答者数）	2
○訪問先施設評価実施期間	令和7年1月15日		～	令和7年2月14日
○訪問先施設評価有効回答数	（対象数）	4	（回答数）	4
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年4月20日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童発達支援事業との併行利用を基本としていることから、職員が利用児の状態や状況を理解している。	児童発達支援事業での担当職員が訪問することを基本としている。担当職員が訪問することで利用児の実態に合わせた支援を行うことができている。	全職員が情報共有できるよう、訪問支援の報告をする機会を設ける。 担当職員の負担増とならないよう、業務調整等を行なう。
2	日頃から地域の幼稚園やこども園、保育所等と連携が図れている。	教育委員会主催の巡回支援に帯同したり、可能な範囲で園の運動会や発表会等を見学に行くなどして園での実態把握に努めている。	訪問支援計画立案時の担当者会議や訪問支援後のケースカンファレンスだけに留まることなく、電話等でこまめに連絡を取り合っていく。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童発達支援と兼務になることから訪問支援の提供数が限られる。	児童発達支援事業の定員に合わせた職員数しか配置されていない。	保育所等訪問支援を要望する利用者の声に応えられるよう、適切な人員配置を人事担当に伝えていく。 訪問支援員の負担増にならないよう、業務の調整を行なう。
2	保育所等訪問支援員としての経験が浅い職員が多い。	公的機関のため、職員の異動がある。	十分な支援を行なうためにはスキルの獲得と経験が大切であることから、短期での異動は避けてほしい旨を引き続き人事担当に伝えていく。 保育所等訪問支援員として経験を積んでいる職員を訪問支援初日に同行させている。
3			